

# 高知 県労連

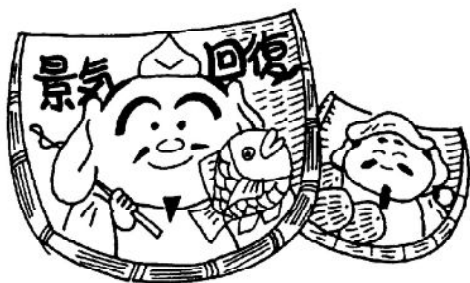
NO. 103

発行：高知県労連書記局

E-mail kochikenroren@fm2.seikyoku.ne.jp

UHL:http://kochikenroren.littlestar.jp/

2008年1月4日



# 謹賀新年



組合員みなさん

新年あけましておめでとございます。昨年は県労連旗びらきの後、一斉地方選挙、参院選挙、秋には革新県民連合として16年ぶりとなった県知事選挙がたたかわれ、まさに、選挙に明け暮れた一年でした。

選挙結果でいえることは、「格差と貧困」の広がりにたいする国民の怒り、憲法9条を変えて戦争する国づくりをめざす自民党・公明党の政治への怒りが大きく広がり、政治を変える大きなエネルギーとなつていくことが明らかとなりました。参院選で敗北した安倍首相は退陣し、「テロ特措法」でインド洋に派遣されていた自衛隊は撤退することになりました。

「格差と貧困」をなくす課題では最低賃金の引き上げ、『偽装請負』を告発した青年労働者のたたかいが大きく広がり、正社員化の扉が開かれましたし、生活保護基準の切り下げも労働者・国民の反対世論と運動で中止をさせることができました。国民のいのちを守るたたかいでは、建交労の「じん肺闘争」が大きく前進しましたし、年末の「薬害肝炎」問題が解決にむけた大きな動きがありました。

このように、07年の参院選は、労働者・国民のたたかいが政治を動かす時代を切り開いたと思います。

今年さらさら情勢を進展させるため、従来にも増して共同を広げる必要があります。

高知市老人クラブ連合会は、今年4月からスタートする「後期高齢者医療制度」に反対して『1万人署名』の運動を展開しています。同クラブの川村会長は、「しんぶん赤旗日曜版」のインタビューで「国は一方で、米軍にただで給油し、防衛省も無駄に金を使っています。それをしぼつたら年寄りを『わや』にしなくてもすみます」と述べています。川村会長のこの言葉は、私たちがこれまで要求してきた「軍事費を削つてくらしと福祉・教育にまわせ」が多くの人たちの切実な要求となつていくことを示しています。

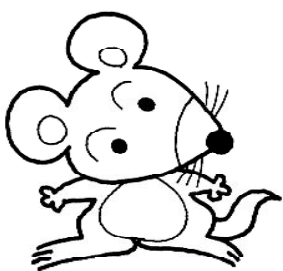
これまでも年金や医療などの改悪がおこなわれてきましたが、老人クラブ連合会がこのように立ち上がったのは初めてのことです。ここに共同をさらに広げることができる情勢の発展を見ることができそうです。

安倍政権を引き継いだ福田内閣は、「ソフト」を装い、小泉・安倍路線の若干の手直しをはかっていますが、支持率の低下は避けられず、今年「解散・総選挙含み」で春闘がたたかわれます。

総選挙に勝利し、憲法を守り抜き、「格差と貧困」を解消させる政治の確立の展望を切り開きましょう。

組合員みなさんとご家族が健康で過ごされますよう祈念いたします。

高知県労働組合連合会  
執行委員長 高橋豊房



## 針路

昨年を象徴する言葉は、「偽」であった。牛肉、シジミ、そうめんまで、

産地偽装や消費期限の改ざんとあの手の手。しかし、極めつけは内橋克人が言う「民意の偽装」だろ  
▲55年体制自体がそもそも民意の偽装であったと言えなくもない。とりわけ、首相のたらいまわしは、偽装そのもの。今年解散総選挙必至と見られるだけに、それらを正す変化の年にしたい▲その中心は、格差と貧困の是正。「貧困撲滅春闘」が08春闘のメイン・スローガンになるだろう。なぜか私には、除夜の鐘が「ビンボー」と悲しく響いた▲昨年は最低賃金闘争など全労連の長年の運動が、ようやく世論を動かした。県内の最賃は7円上がった。しかし、東京との格差は縮まるどころか逆に13円拡大した。県内の最賃が一番上がったのが1974年。なんと47円、32.4%の引き上げだった。当時は、中小の賃上げ率を上回る最賃の引き上げで格差を縮めることが、戦略目標だった。08春闘の戦略は？▲格差と貧困の根本原因の問い直し。新自由主義、構造改革路線の転換。その具体策は春闘方針に盛り込んだ。今年の除夜の鐘が、もっと明るい音色に響くように。